

## 株式会社浅田

横浜市金沢区幸浦2-1-15-110

☎045-791-1719



ハマの社長ネット  
はこちら

### 創業100年。ミシンを柱に時代の変化を見据える

株式会社浅田は、代表取締役の浅田哲男さんの祖父・実さんが1922年に横浜市中区長者町でシンガーミシン横浜として創業、100年を越す歴史がある。

米軍の払い下げミシンを再生して販売するなど戦後の混乱期を乗り越え、1986年にはミシン販売以外の業務拡大を見据えて社名を「浅田ミシン商会」から「浅田」に変更した。2004年には、金沢区幸浦の卸団地に本社を移転し、10年前に哲男さんが3代目社長に就任した。

かつては多くの家庭で必需品だったミシン。浅田も、長者町の本社近くに家庭用ミシンの販売店を構え、縫い方教室を開いたりもした。しかし、今では家庭用ミシンは、売り上げの1割あるかないか

という。

そうだと。ミシンはアパレルの他にも、クルマのシートや内装、オフィスチェアなどの家具にも使われている。浅田の取引先は自動車関連が7割、家具、産業資材、アパレルが各1割という。ミシンを販売するだけでなく、生産性の向上や品質の安定に欠かせないアタッチメント類（補助・付属部品）を縫製ラインに合わせて自社で設計製造する。浅田さんは「私たちの強みはここにある」と胸を張る。

取引先のクルマの工場が首都圏から地方、海外へと移転したため、担当者は地方出張に奔走する。今後は海外で製造できない部品を日本で製造して輸出していく事業にも参入していきたいという。

浅田は現在、3Dプリンターを導入して以前は鉄で作っていた簡単なアタッチメントを3Dで再現することでコスト削減に力を入れている。また、メーカーと協力して、ロボットとミシンをコラボレーションさせ、縫製の自動化を目指す事業を2年前にトライした。「そのノウハウを活かしてまたチャレンジしたい」と話し、ミシンから派生していく新たなビジネスを模索している。



代表取締役 浅田哲男さんと  
独自の技術で製造したステンレス板金

売り上げの約7割は工業用ミシンで、装置を含む付帯部品が2〜3割を占める